



天文台だより

銀河の森天文台
2012 春号
Vol. 55

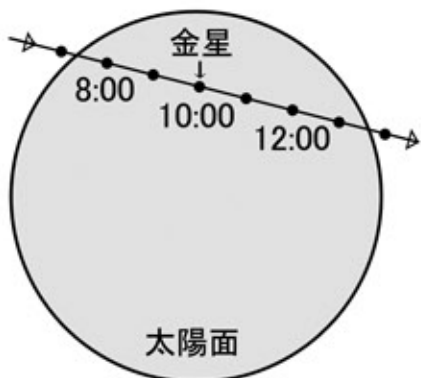
今世紀最後！6月6日、金星の太陽面通過！

2012年6月6日(水)、金星が太陽の前を通過する「金星の太陽面通過」という珍しい現象が起きます。2004年6月8日以来8年ぶりの現象になります。

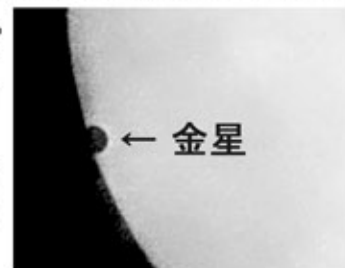
金星は、6日午前7時10分頃から太陽の前面に入り、太陽面の上部をゆっくり西へ移動し、午後1時47分に太陽面通過は終了します。食の最大は、午前10時29分になります。金星は太陽と比較すると視直径で32分の1の大きさです。日食メガネなどで観察すると太陽の中に小さな黒い丸の金星を見ることができます。下の写真は、2004年の太陽面通過時に観測した金星の様子です。

今回は、2117年12月11日と計算されていますので今世紀では今回が最後の現象になります。是非、ご来館下さい。

※太陽を観察する場合は、太陽観察用の器具(日食メガネなど)をご使用下さい。太陽を直接肉眼で見ることは大変危険です。絶対にしないで下さい。



2012年6月6日の金星の動き



「館長コラム」上出洋介(牡牛座)

今年は多くの“天文ショー”がありますが、いよいよ金環日食が迫ってきましたね。5月21日の早朝です。ご存知のように、日食とは、太陽、月、地球が一直線に並んで太陽が月に隠されて、欠けてしまう現象です。

しかし、いくら3つが並んでも、地球から見る月が太陽の中にすっぽり入ってしまい、太陽の外側がリング状に少しはみ出してしまうことがあり、金環日食になるのです。月が地球を回る軌道も、その地球の公転軌道も楕円であるため、地球から見る月と太陽の大きさが常に変っているからこのようなことが起きます。

この金環日食を機に、「星の軌道は円である」と主張したガリレオがもしも正しかったら、星の運行はどうなっていたかとか、場所によって皆既日食と金環日食が起きるハイブリッド日食などのことを考えてみませんか。

今回の金環日食は日本列島の太平洋側で見られ、北海道では太陽の80%以上が欠ける部分日食になります。2030年6月1日には、北海道のほとんどで金環日食が見られるということです。



(上出洋介館長)

北大から博物館実習生を受け入れ！

2012年1月18日～22日の期間、北海道大学大学院生の**大野義直**さんを博物館実習生として受け入れ、実習を行いました。実習では、大型望遠鏡による星空案内や出前授業補助、デジタルカメラによる天体撮像、画像処理実習、天体ポスター作成などを行いました。以下、大野さんの感想文です。



「博物館実習を終えて」

(北海道大学農学院修士1年 大野義直)

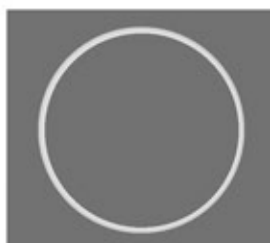
博物館実習生として、銀河の森天文台にお世話になりました。札幌では天文についてのボランティアをしているので、その経験も生かせればと思い、銀河の森天文台にきました。スタッフの方々による星の解説を聞くたびに、心から天文が好きなのだと感じ、その解説を聞くことでこちらも楽しくなります。天候の都合もあり私が解説できたのはわずかでしたが、自分でもそのような楽しさを共有できる解説ができていたと思います。実習中は大変寒い時期でしたが、一等星以上の明るい星が特に多い時期です。この時期に、星空のとてもきれいな陸別で実習ができたことを大変うれしく思います。また何度でも来たいです。

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
4月 1日	5:04	17:55	9.5	11:29	1:31
4月 15日	4:39	18:12	23.5	1:27	12:16
5月 1日	4:14	18:31	9.8	12:35	1:07
5月 15日	3:57	18:47	23.8	0:53	13:17
6月 1日	3:43	19:03	11.1	15:06	1:06
6月 15日	3:39	19:12	25.1	0:40	15:09

5月21日朝、金環日食！



金環日食のイメージ図

5月21日朝、九州南部から四国、近畿、中部、関東にかけて太平洋側の広い地域で「金環日食」が起きます。北海道では部分日食となり、陸別では午前7時50分頃食分が最大(0.85)となります。

太陽を観察する場合は、上述の注意を守って正しく行って下さい。

天文行事&暦

4月

- 4 清明(24節気:太陽黄経15°)
- 7 ○満月
- 17 土星が衝
(光度0.2等、視直径19".1)
- 19 水星が西方最大離角
(光度:0.4等、離角:27° 30')
- 20 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
- 21 ●新月
- 25-5/6 土星観望会
- 30 金星が最大光度(-4.5等)
特別開館

5月

- 4/25-5/6 土星観望会
- 5 立夏(24節気:太陽黄経45°)
- 6 ○満月
- 14-25 天文台メンテナンス休館
- 21 小満(24節気:太陽黄経60°)
- 新月
- 金環日食(東日本の関東-近畿
南部-四国南部-九州南部)
- 陸別:部分日食(食分0.85)
- 始:6:34、最大:7:50、終:9:22

6月

- 4 ○満月
部分月食(最大食分0.37)
陸別(始18:59、最大20:03、
終21:07)
- 5 芒種(24節気:太陽黄経75°)
- 6 金星の太陽面通過(全国)
始:7:10、最大:10:29、終:13:47
金星の太陽面通過観望会
- 20 ●新月
- 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)

春のイベント情報!!

☆土星観望会

この時期見頃の土星を中心に春の天体を観望します。土星は今年もおとめ座の中にあります。是非、大型望遠鏡で土星の輪をご覧下さい。

開催日時: 4月25日(水)~5月6日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜・祝日のみ)

☆金星の太陽面通過観望会

6月6日午前7時10分~午後1時47分の間、金星が太陽の前を通過する「太陽面通過」現象が起き、その様子を太陽望遠鏡などで観望します。

開催日時: 6月6日(水) 午前10時~特別開館

天文台日記 -「冬だけの再会」-

2月某日、一年ぶりのお客様に再会しました。冬の北海道が大好きな本州からのお客様で、この時期に何度となく北海道を訪れているそうです。そして毎年、陸別、天文台まで足を運んでくださいます。スタッフの間でもこの時期になると「そろそろ来るかな?」と話題に上り、再会を楽しみにしています。独特のイントネーションで、旅の話やそのウラ話を楽しそうにしてくださる姿がとても印象的です。年に一度ですが毎年かかさず来て頂けるとは、本当に光栄でありがたいことです。今年も変わらずお会いすることができて嬉しかったです。お元気そうでなによりと感じつつ、一年の早さを感じました。(榊)



「発見! 銀河の森」 - 雪の華 -

今年は例年にも増し寒い冬となりました。陸別で降る雪は、本州で降る水分を多く含んだ重たい雪と違い、気温が低く空気がとても乾燥しているので、雪の結晶がとてもはっきりとした軽いものとなります。この雪を虫めがねや顕微鏡で詳しく見てみると、まるで雪の華のような神秘的で美しい結晶の形が見えてきます。また、雪の結晶は不思議とひとつ



ひとつが皆違う形をしているのでとても面白いものです。晴れた日には望遠鏡で星を眺め、雪の日には顕微鏡で雪の結晶を眺めてみると、宇宙(自然)は改めて神秘的な世界だと感じさせられます。(寛)

プラネ情報

上映番組: 4/30まで「SNOWFLAKE」

5/3から「いきものがたり」

上映日: 開館日の土曜、日曜、祝日

上映時間: 午後3時、5時、8時の3回

※ 1回は約30分間の上映になります

定員: 各回20名(入館者先着順)

※ 入館料のみで観覧できます



天文台からのお知らせ

☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30となります。

(昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)

☆ 4月30日は、月曜日ですが特別開館します。

☆ 5月14日(月)~25日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp